

“ゴリ” 資源状況把握調査結果

幡野 真隆・井戸本 純一・臼杵 崇広・佐野 聡哉

1. 目的

琵琶湖のヨシノボリ類稚魚の“ゴリ（ウロリ）”は重要な水産資源の一つであるものの、資源生物学的な知見に乏しいことから、その実態は不明である。そこで、資源状況把握の一環として、ビームトロール網によるモニタリングを行った。

2. 方法

昨年度に引き続き、ゴリの主要漁場の一つである彦根市薩摩地先において、2014年7月1日、7月25日、9月4日に水深4m、7m、10m、13mで底曳網調査用のビームトロール網（ビーム長3m、袋網目合い1.4mm）により魚類採集調査を行った（7月25日の13m地点は欠測）。漁獲サンプルは現場で10%ホルマリンで固定し、後日選別を行った。外見による種判別の困難なハゼ類をゴリとし、その他をビワヨシノボリ、ヌマチチブ等に選別し、計数ならびに体長測定を行った。

3. 結果

昨年度と同様、最も多く漁獲されたのはゴリであった。今年度は昨年度と比較して、より多くのゴリが採捕された。深度別では7mもしくは10mで多く採捕された。採捕されたゴリの体長組成を見ると、地点によりばらつきが大きい場合、二峰型を示す場合があったことから、ゴリは複数の群の混成であることが示唆された。このことから、ゴリ資源状況の把握には種組成判別を行う必要があると考えられた。

表1 漁獲サンプルの個体数組成

年月日	水深	ゴリ	ビワヨシノボリ	ウキゴリ	ヌマチチブ
2014/7/1	4m	24	323	4	5
	7m	1,182	20		1
	10m	484	75		
	13m	324	102		
2014/7/25	4m	849	42	2	13
	7m	14,399	11		
	10m	257	7		
2014/9/4	4m	1,724	2	2	84
	7m	1,412			3
	10m	7,407			
	13m	748	2		

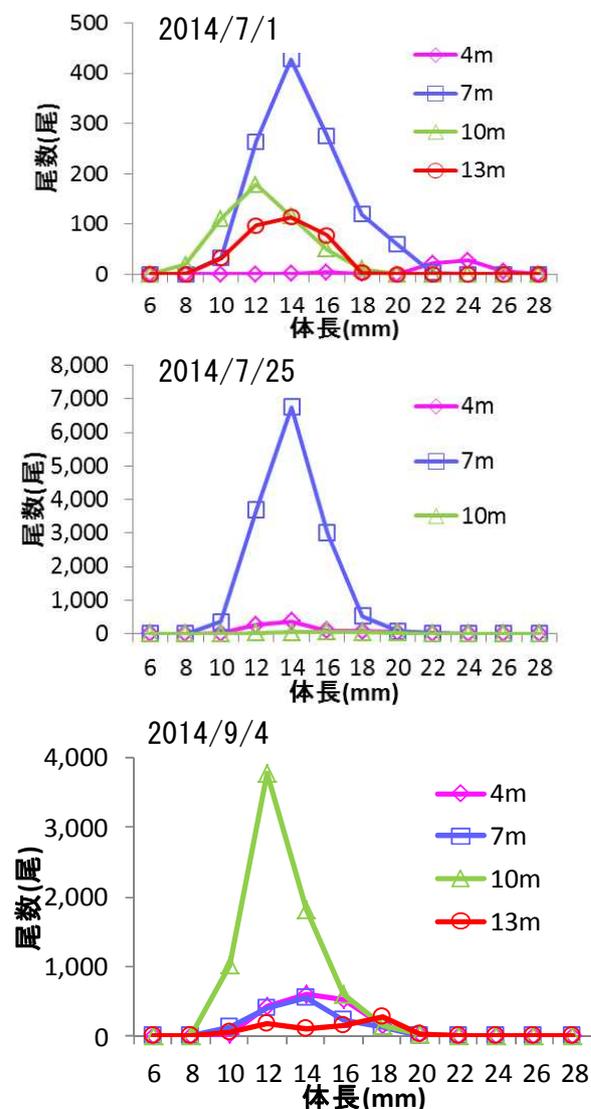


図1 ゴリの体長組成